

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171800259		
法人名	特定非営利活動法人 グッドシニアライフ		
事業所名	グループホーム「和居和居」吉番館・式番館		
所在地	岐阜県土岐市泉町大富174		
自己評価作成日	平成29年1月6日	評価結果市町村受理日	平成29年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171800259-004&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171800259-004&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成29年1月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設より14年が経ち、ご利用者様の認知症状態も様々な為、一人ひとりに合わせた対応を心掛けています。学習療法や季節の行事等を実施し、楽しみや笑顔のある暮らしを支援しています。ご家族様とは、夏祭りや家族祭り、年2回の遠足、運営推進会議等にご参加頂きながら交流を深めています。公園やスーパー、飲食店等へ出掛け、地域の方々とふれあう機会を提供しています。ご利用者様には、認知症があっても得意だった事や残存機能を引き出し、役割を持って生き活きと生活して頂けるように取り組んでいます。毎月「和居和居カフェ」を開催し、地域の方々へ認知症の理解や支援の方法等を伝える機会を設けています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域との繋がりがりや家族との関係を大切にしている。自治会員として、行事や地域の清掃活動等に参加し、「和居和居カフェ」には、地域住民を招いて交流を行なっている。「家族祭り」には、退所した利用者の家族も参加し、前日から、利用者家族が自主的に祭りの準備に関わっている。職員や利用者、家族が、五平餅や冬瓜汁作り、また、様々な持ち寄り等もあり、恒例のイベントとなっている。管理者は、社会で発生した災害や事件を分析し、家族との連絡方法の徹底、防犯対策等、利用者の安全確保に取り組んでいる。学習療法にも取り組み、利用者一人ひとりの残存機能を活かし、笑いの絶えない暮らしを支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	適いの場合グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「残存機能の行使による認知症進行の予防」他2項目あります。その意義を職員間で共有し、利用者のできることを支えながら自分らしく安心のできる暮らしを支援しています。	ケア検討会の中で、一人ひとりの利用者に対し、理念に沿ったケアが出来ているか確認し合い、共有している。職員の手厚い介護と、温かい地域住民に見守られながら、一人ひとりを尊重し、自立に向けた生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会員として地域行事に参加しています。地元のスーパーや飲食店へ出掛けて、住み慣れた町での生活を大切にしています。事業所の行事に地域の方々をお招きし、交流も深めています。月に1回、和居和居カフェを開催して地域との交流の場としています。	資源回収や側溝掃除等、地域の活動に参加している。遠足で買って来た土産や、行事で焼いた五平餅等を近隣に手渡したり、柿をもらったりの付き合いが続いている。また、訪問した小学生がピアノの伴奏をして、利用者と一緒に歌うなど、楽しく交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1回認知症カフェを事業所内にて開催し、地域の方々に認知症の人の理解や支援の方法などについて伝える機会を設けています。中学生の職場体験などを受け入れ、ふれあいの中から認知症の人への支援方法を伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は隔月に開催し、地域の方々やご家族様にご出席頂いています。事業所の運営やご利用者様の状況などをお伝えしています。出席者と意見交換を行い、そこでのご意見などをサービス向上に活かせるように努めています。	会議には、利用者も参加している。家族も気楽に、行政に相談できる場となっている。行政や自治会長から、防災対策や、遠足に適した場所等のアドバイス、地域のインフルエンザ情報があり、感染予防対策に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、運営推進会議などの場で事業所の実情をお伝えしています。介護保険の動向や地域高齢者の現状などの説明も受けています。市の介護相談員が毎月訪れ、協力関係を築いています。	運営推進会議の案内や議事録等を、行政の窓口に出向いて手渡したり、事故や困難事例について相談する等、日常的な協力関係が出来ている。認知症の方と共に、タスキをつないで走る列島リレー「土岐RUN伴プラス」に、利用者と職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束(言葉による抑制、拘束)についての研修や事業所内での勉強会にて、身体拘束を行わないケアを理解し取り組んでいます。日中は、玄関の鍵は開錠しています。「コンプライアンス・セルフチェック表」を毎月全職員が記入し、身体拘束をしないケアについて見直す機会を持っています。	身体拘束をしないケアを維持していく為に、伝達研修や勉強会を持ち、「呼び止めない」「大きな声を出さない」を基本に、すぐ近くで見守り、一緒に行動すること等を実践している。ヒヤリハット事例を振り返り、身体拘束をしないで、事故を未然に防ぐ対策を立てている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待についての研修や事業所内での勉強会にて、高齢者虐待についてを学んでいます。職員間で困難事例を検討し、悩みを一人で抱え込まないように努めています。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は成年後見制度の研修にて学ぶ機会を持ち、必要な方には活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時にご家族様、ご利用者様共に説明を行い、不安や分からない点には十分な説明を行い納得して頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時などにご家族様からご意見を伺い、常に話しやすい雰囲気作りに努めています。ご利用者様は、介護相談員に話せる機会を設けています。出された意見は、会議などで職員へ伝え、サービスの向上に取り組んでいます。	ケアカンファレンスには、家族も参加している。「排泄用パッドの使用量が多い」と、家族から意見があり、事情説明により了解を得ている。遠足に対する感想や意見が、運営推進会議に参加した家族からあり、次回に反映すべく話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者が職員との面談を年2回行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。出された意見や提案を会議などで検討し、職員の意欲向上や職場環境作りに努め、反映させています。	職員は、日々現場に入っている管理者に、リーダー会議の中で検討してほしいことを提案している。拘縮が進んでいる人へのクッション利用、立位困難な人への入浴二人介助等の提案を、サービスや運営に速やかに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者が職員との面談を年2回行い、個々の努力や実績を把握すると共に、向上心へ繋がるように目標を考えて仕事に取り組んでもらっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの現状を把握できるように、リーダー会議にて情報を共有しています。必要に応じた研修を見極め、参加できる機会を提供しています。積極的に職員のスキルアップ(資格取得)を働きかけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、ケアマネ協議会、法人内外の勉強会、認知症カフェ、ラン伴などへ参加することで、同業者と交流する機会を持ち情報交換をすることによって、サービスの向上へ努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様から困っている事などを伺い、ご自分の意見を話されない場合でも表情や態度、会話の中より思いを汲み取るように努めています。安心して生活をして頂ける対応を心掛け、信頼関係構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に申込時より事業所を見学して頂き、不安や困っていること、要望などをお伺いしています。センター方式の記入にご協力を頂き、ご家族様の思いや今までの生活の様子などの理解を深め良い関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所1ヶ月後などは、その時々に合わせてケアプランを立てています。場合によっては、他のサービス利用も検討し対応ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの知恵(家事や畑作業、風習など)や物事の捉え方など人生の先輩であるご利用者様から教わることも多く、職員もご利用者様に支えられながら暮らしのパートナーとして共に生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の状況に合わせて、行事などへの参加協力をして頂き、途切れない家族との関係性作りに努め共にご本人様を支えています。面会時や毎月担当職員が生活の様子を手紙でお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人、親戚などが自由に訪問することができます。遠方のご家族様などとは、電話で話ができる機会も提供しています。行きつけの店(スーパーや飲食店)などへ出掛けられる機会を作り、馴染みの人と場の関係継続を支援しています。	知人や親戚等の面会が多く、継続に繋がるよう、認知症カフェや、各種行事に参加してもらい、交流を行なっている。自宅周辺へのドライブや、馴染みの喫茶店等へ職員が同行するなど、家族の協力も得ながら外出を支援している。訪問が難しい家族には、電話や手紙で、日常の様子を伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に時間を共有(学習療法や家事、レクなどの活動)して過ごされるご利用者様が多く、馴染みの関係ができています。時には職員が間に入って関係調整も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても事業所を訪問し、行事へ参加協力をして下さるご家族様もみえます。ご利用者様が他施設へ移られた後も必要に応じて相談を受けています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の調査で、基本情報やセンター方式のシートを活用して、ご利用者様の思いや希望の把握に努めています。日々の暮らしの中でも、思いや意向を聞き取り、困難な場合には生活の様子から考察し、職員間で共有しながら日々の暮らしへ活かしています。	日々の会話や学習療法の中で、かつて働いたことがある仕事についてや、今、欲しい物等を聴き、把握している。「和居和居カフェ」では、経験のある利用者がエプロンをかけて、接客係を担ったり、仏壇の供え物を買いたいという思いを聞き取り、職員と一緒に買い物に出かけている。困難な人は、耳元で優しく語りかけたり、家族に相談して、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを活用し、ご家族様に記入して頂く事で、生活歴や馴染みの暮らしなどの把握に努めています。ご家族様からも面会時などにお話を伺い、これまでの写真を拝見することで理解を深めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様一人ひとりの心身の状態や残存機能についてを細かく記録へ残し、職員同士で共有しながら現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月職員は意見やアイデアを出し合い、3ヶ月毎のケアカンファレンスでご本人様やご家族様から出た意見や要望なども反映できる介護計画の作成に努めています。状態に応じて、医師や看護師、歯科衛生士等からの意見も求めています。	介護計画は、家族の意向、医療関係者からの情報、スタッフ全員の意見等を反映している。「落ち葉掃き」「献立表書き」等、一人ひとりが出来る役割りを取り入れ、認知症進行の予防に活かせるような介護計画作りを行ない、新規の人は1か月後に見直し、現状に沿った計画にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や会話、ケアの実践・結果や気づきなどを細かく記録へ残すことで、職員間の情報共有を図っています。記録の記載事項から介護計画の見直しへ活かすようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に合わせて、一人ひとりに必要なサービスを心掛けています。ご家族様が同行できない時の受診を支援したり、個人の要望に合わせた物品の購入支援も行っています。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや介護相談員、美容師などの訪問、地域での行事(夏祭りなど)に参加しながら豊かな暮らしができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご利用者様・ご家族様の同意を得て、協力医へ変えています。協力医による訪問診察が月に2回あります。適切な治療が受けられるように、専門医への受診はご家族様へ依頼し、必要時には職員が対応しています。	かかりつけ医については、本人・家族の同意により、全員が協力医としている。協力医以外の受診は、家族同行を基本とし、事情によっては職員が支援している。受診時は情報提供書を活用し、事業所と家族で受診結果を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護での相談、指導を受けています。24時間の連携契約を結んでいる為、常に連絡が取れる体制になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には安心して治療ができるように、または早期退院へ繋がるようにご家族様や病院関係者との情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期の方針についてご説明し、同意を得ています。早い段階からご本人様やご家族様の希望をお伺いし、医療関係者や職員とも話し合いながら終末の支援体制を整えています。	契約時に、重度化や終末期の指針を説明し、早期からの話し合いが出来ている。終末期には、職員の勤務体制を整え、家族の協力を得ながら、看取りの支援に取り組んでいる。関係者と医師、看護師で話し合いながら、担当職員には、適切なアドバイスをこなうなど、チームで支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内での勉強会などにて訓練を行い、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害訓練では、昼夜を想定した避難誘導や通報などの訓練を実施しています。ご家族様や地域住民の方々へも消防訓練への参加協力を依頼し、運営推進会議へ参加された方々には災害時の協力依頼もしています。	年2回の防災訓練は、利用者も参加して行っている。水害を想定した訓練は、全職員が参加できるように、3回に分けて実施している。非常用備蓄品は、分かりやすいよう収納場所別に記述し、適切に管理している。	近隣宅を訪ね、文書にて訓練参加を呼び掛けているが、協力が得られていない。地域の行事同様に、地域の災害訓練にも積極的に参加し、地域と共に、利用者の安全を図れるような取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりに合わせた声掛けの仕方や表情、言動などに配慮しながら、人生の先輩であるご利用者様の尊厳ある暮らしを支えています。入浴や排泄介助の際には、プライバシーに配慮した対応に努めています。	職員は日常生活の中で、言葉や声のトーン、態度等で、利用者の人格を傷つけないよう、心掛けている。伝達勉強会では、具体例に基づき、職員間で確認し合い、共有しながら、ケアの質の向上に活かしている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が自己決定できるように疑問形での声掛けに努め、一人ひとりの分かる言葉を選びながら対応するように心掛けています。意思表示困難な方には、表情や反応に考慮しながら思いを汲み取るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の状態に合わせて一人ひとりのペースを大切に、ご本人様の希望を伺いながら生活を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性や希望、生活歴などを配慮し、その方らしい髪型や服装などの身だしなみやおしゃれができるように毎日支援しています。必要な物がある場合には、職員と買い物へ出掛けて購入しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の好みや希望の食事を伺ったり、季節感のある献立作成に努めています。事業所内の畑でご利用者様と共に野菜を栽培し、一緒に調理や片付けも行っています。買い物や外食へも出掛けられ、食事を楽しめる環境作りをしています。	利用者は、職員と共に、食材の買い物、下ごしらえ、調理、片付け等、出来る人が出来ることを手伝っている。食事中は、静かに音楽を流し、要介助者のペースに合わせ、さり気ない食事介助で、落ち着いた雰囲気の下、職員と一緒においしさを共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶の時間には好きな飲み物を選ぶ機会があり、食事形態も一人ひとりに合わせた対応をしています。摂取量が少ない方へは、水分の温度への配慮や嗜好品の提供を心掛け、摂取量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、一人ひとりに合わせた対応を心掛け、拭き取りシートやスポンジブラシ、歯間ブラシを使用した口腔ケアも行っています。訪問歯科を利用し、歯科衛生士による口腔ケアも実施しています。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、排泄パターンなどを理解した上で、こまめにトイレ誘導を行い排泄の自立を支援しています。殆どのご利用者様が布パンツにパッドで過ごされています。尿量などを把握し、適したパッドを使い分けパッド使用の減少に努めています。	職員は、羞恥心に配慮しながら、きめ細かな声かけと誘導で、トイレでの排泄を支援している。殆どのご利用者は、昼夜共、布パンツにパッドで過ごしている。夜間は、一人ひとりの状態にあったパッドを工夫することで、汚染や失敗を防ぎ、本人の自信と家族の費用負担軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後ゆっくりとトイレで座って頂いたり、腹部マッサージの実施、食事などにも配慮し、便秘の予防や対応に努めています。散歩や体操などで運動する機会を作り、水分摂取量にも配慮しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は週3回と決まっていますが、夏場はご利用者の希望を伺い毎日シャワー浴ができる体制になっています。季節に合わせて、ゆず湯や菖蒲湯なども楽しんで頂いています。	入浴日や回数は、利用者の希望に応じている。事業所での入浴が苦手で、シャワー浴のみの利用者は、時々、家族と一緒に温泉に行っている。利用者一人ひとりの状態に合わせ、複数介助も取り入れ、安心・安全を入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中自室にて休みたいご利用者様には体調を考慮しながら、夜間の睡眠に支障がない程度休んで頂いています。夜間ぐっすり休んで頂けるように日中の活動で体を動かせる(太陽に当たる)機会も作っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による服薬指導にて、副作用などを把握し情報共有にも努めています。内服の介助も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴などから、得意だったことが楽しみや役割に繋がり、毎日生き生きと生活して頂けるように支援しています。お茶出しや料理の盛り付け、献立ボードへの記入などにて活躍されています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、外食などに職員と出掛けられる機会を提供しています。お供え物や化粧品などの購入も希望に応じて、職員と買い物へ出掛けています。年2回の遠足では、ご家族様と協力しながら実施しています。	公園や神社等、周辺の散歩コースに恵まれ、日常的に出かけている。買物やドライブ等は、担当の職員が、個別の希望を聴き、寄り添い、会話を楽しみながら、外出を支援している。恒例行事となっている遠足には、家族にも呼びかけ、多くの参加が得られている。	

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じてお金の所持は対応しています。ご自分で管理されているご利用様は、買い物へ同行された際欲しい物を購入されています。お預かりしている場合でも、必要に応じて買い物や支払いの支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご親戚へ電話を掛けられる機会や毎月手紙を書くことができる機会を支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた掲示物や花を飾り、行事の写真やご利用者様の作品(塗り絵や習字など)を掲示することで生活感を取り入れています。温度や湿度管理にも努め、一年を通して心地よく過ごせるようにしています。	共用の居間は、床暖房で室温を保ち、2台の加湿器で、湿度調節を図っている。台所の窓からは、野菜畑が見える。ソファや椅子には、背もたれを兼ねた温もり感のあるクッションを使用している。食後は、各自が、炬燵のある畳コーナーや好きな場所で、思い思いに寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれがお好きな場所で自由に過ごされています。リビングでは一人ひとりが落ち着ける場所に座られていたり、自室でくつろがれている方や庭を散策される方などもみえます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物(家具や鏡台、位牌、テレビやラジオなど)やご利用者様が好む飾り(家族の写真やご自分の作品、人形やカレンダーなど)を配置し居心地よく過ごせる工夫をしています。	畳敷きの居室は落ち着きがあり、押し入れは、充分収納出来るスペースがある。持ち込みの箆箆や鏡台、椅子等を配置し、仏壇には、買ってきた花や水を供えている。ベッド周辺には、安全に配慮して物を置かず、整理整頓し、居心地良く過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を分かりやすく表示したり、更衣が自己にてできるようにタンスの中を季節の物で揃えるなどの工夫をしています。		